

2007年11月6日

## 日本現象学・社会科学会報 第74号

日本現象学・社会科学会 事務局  
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1  
早稲田大学 社会科学部 周藤研究室内  
Tel/Fax: 03-3203-6308 (直通)  
E-mail: ssuto@waseda.jp

### 1. 今年度年次大会について

今年度年次大会を、来る12月1日(土)・2日(日)の両日、龍谷大学大宮学舎にて開催いたします。会員各位をはじめ、多数のみなさまのご参加をお願い申し上げます。

#### 【会場のご案内】

龍谷大学大宮学舎(龍谷大学文学部) ※同封の案内図をご参照ください。  
所在地: 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125番地の1(電話:075-343-331代)  
交通: JR京都駅下車、徒歩約12分(西本願寺南隣)  
大会会場: 清和館 3階 ホール  
委員会室: 清和館 3階 小会議室

#### \* 一般報告でご報告の皆様へ

配布資料は40部程度、各自でご用意頂きますようお願い致します。

### 2. シンポジウム「哲学にとっての社会科学・社会科学にとっての哲学」について

本学会では、これまでもさまざまな機会に学会の意義やその将来の可能性について話し合いがなされてきました。本年3月には、臨時委員会が開かれ、委員の間で学会の解散も含めた将来について、また、学会の名称変更可能性についてなどが話し合われました。そうした経緯を踏まえて、今年度の大会では、会員全員が議論に参加して問題意識を共有することができるようにするために、特別シンポジウムを開くことにいたしました。

シンポジウムでは、これからの本学会の在り方(解散や名称変更も含めて)を考えるために、哲学者(現象学者)と社会学者が出会い議論する場として出発した当学会のこれまでについてと今後について、自分にひきつけて(哲学者にとっての社会科学/社会学者にとっての哲学について)感想なり意見なり提案なり、とにかく肩の力を抜いた話ができればと思っております。

シンポジウムは、大会2日目の午前中から開催いたします。会員の皆様のご参加をよろしく願いいたします。

### 3. 会費納入のお願い

今年度の会費をまだご納入いただいていない会員の方には、郵便振替の払込用紙を同封させていただいておりますので、ご面倒でもお振り込みくださいますようお願いいたします。年会費は、一般2,000円、学生1,000円となっております。行き違いでご納入いただきました場合には、失礼をお許しください。なお、大会時に会場の受付でも会費の納入を承っております。

以上

# 日本現象学・社会科学会 第24回大会プログラム

会場：龍谷大学大宮学舎 清和館 3階 ホール

## 【第1日：12月1日（土）】

13:30 受付開始

14:00～15:30 一般報告1

司会：草柳 千早（大妻女子大学）

14:00～14:45 「フランクフルト学派の理性批判

——交換と主体化の論理を中心に——」清家 竜介（日本経済復興協会）

14:45～15:30 「正常性とレリヴァンス——規範性の現象学に向けて——」

木村 正人（早稲田大学）

15:30～15:45 休憩

15:45～17:15 一般報告2

司会：村田 純一（東京大学）

15:45～16:30 「プログラム科学論と現象学的点検」

三石 博行（千里金蘭大学）

16:30～17:15 「時間性と蓋然性——経済学と哲学の接点を探る——」

長尾 昭哉（筑波大学）

17:15～17:30 休憩

17:30～18:15 一般報告3

司会：魚住 洋一（京都市立芸術大学）

17:30～18:15 「主婦はなぜ働くのか——選択の問題として考える女性たちの非正規労働——」

徳久美生子（武蔵大学）

18:30～ 懇親会（会場：清和館 1階 レストラン、会費：4,000円）

## 【第2日：12月2日（日）】

10:15 受付開始

10:30～12:00 シンポジウム「哲学にとっての社会科学・社会科学にとっての哲学」（第1部）

司会：村田 純一（東京大学）・那須 壽（早稲田大学）

話題提供：

青山 治城（神田外語大学） 魚住 洋一（京都市立芸術大学）

奥田 和彦（フェリス学院大学） 片桐 雅隆（千葉大学）

草柳 千早（大妻女子大学） 砂川 裕一（群馬大学）

那須 壽（早稲田大学） 浜 日出夫（慶應義塾大学）

丸山 徳次（龍谷大学） 水谷 雅彦（京都大学）

村田 純一（東京大学）

12:00～13:30 委員会（清和館 3階 小会議室）

13:30～14:00 総会（清和館 3階 ホール）

14:00～17:00 シンポジウム「哲学にとっての社会科学・社会科学にとっての哲学」（第2部）